

平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

吹田市内の府立高校として最も長い歴史を持つ本校は、「伝統校」の誇りを持ち、地域に根差した信頼できる学校として生徒の持つ能力を最大限引き出すことを目標としている。とりわけ、以下の3点の力を身につけられるよう、生徒自身の「人間力」を育むため、教職員が一体となり、保護者、地域と連携して多様な取組みを進めていく。

- 1 自己を理解し、他者を認め、社会の中で望ましい人間関係を構築する力
- 2 確かな知識や技能をもとにして自ら考え、判断・表現し、主体的に学び続ける力
- 3 心身ともに健康であり続ける力

2 中期的目標 (H30 年度～2020 年度)

1 自己を理解し、他者を認め、社会の中で望ましい人間関係を構築する力の育成

(1) 基本的生活習慣の確立と確かな規範意識をはぐくむ

ア 遅刻「0」の学校をめざし、学校をあげて「朝ガク」の充実、遅刻指導の徹底を図る。また、身だしなみ指導（頭髪・制服の正しい着用等）の徹底を図る。

※平成 32 年度には遅刻総数を 2000 件以下とする。（H28：2,785 件、H29：2,727 件）

イ 授業規律を徹底するとともに、自転車マナーの向上、情報モラルの育成を図る。

※生徒向け学校教育自己診断の規範意識に関する全ての項目の肯定率（H28：89.9%、H29：90.8%）を 2020 年度までに 95%以上に引きあげる。

(2) 学校生活における様々な活動を通じて、自己を正しく理解した上で、他者を認め、望ましい人間関係を創り上げる力をはぐくむ

ア 行事を通じて育成される生徒の自己肯定感と自己有用感を高めるため、学校行事・HR活動の「質の向上」をめざす。また、集団の中で人と調和しながら活動できる能力を高め、新たな提案や活動ができる人材を輩出できるよう、生徒・生徒会執行部の主体的な活動を積極的に支援する。

※生徒向け学校教育自己診断における学校生活全般に関する項目の肯定率（H28：74.0% H29：72.5%）を 2020 年度には 80%以上とし、生徒向け学校教員自己診断における学校行事における自主性・積極性に関する肯定率（H28：87.0% H29：85.3%）を 2020 年度には 90%以上とし、それを維持する。

イ 部活動への加入を促す取組みを計画・実施するとともに、部活動の質の向上をめざす。さらに、学校見学会を活性化し、より多くの中学生の参加を図るとともに本校生徒の運営への参加を広げ、中学生との交流の機会を増やすことで「吹高生」としての自覚を高める。

※部活動の加入率（H28：40.6% H29：47.4%）ならびに部活動に対する満足度（H28：91% H29：75%）を引きあげ、2020 年度には加入率を 55%以上、満足度を 90%以上を維持にする。

ウ 人権及び人権問題に関する正しい理解を深め、いじめを許さないことはもとより、互いを認め、尊重していくことのできる精神を育む。

※生徒向け学校教育自己診断の人権に関する項目における肯定率（H28：72.9% H29：74.3%）を毎年引きあげ、2020 年度には 80%以上にする。

(3) 生徒が主体的に進路目標を定め実現できるよう、「展望を持たせる取組み」を通じて、社会の中で生きていく力をはぐくむ。

ア 「進路のてびき」を作成し、系統的な進路指導計画への改善を進め、1 年生から 3 年生までの学習進行に応じた計画的進学講習のさらなる定着・発展に努める。

※進学講習へのべ参加生徒数（H28：588 名 H29：705 名）を 2020 年度には 750 人以上とする。

イ 進路検討会議の定例化により、生徒の進路実現にむけた課題を早期に発見確認し、3 年間の長期的展望にたった具体的支援策をチームで実施していく。

※生徒向け学校教育自己診断の進路指導に関する全ての項目の肯定率（H28：82.5% H29：81.7%）を毎年引きあげ、2020 年度には 90%以上にする。

2 確かな知識や技能をもとにして自ら考え、判断・表現し、主体的に学び続ける力の育成

(1) 生徒の持つ学力を最大限に引き出す

ア 公開授業、研究授業の定期実施、授業アンケートの個人・科目・教科による系統的かつ綿密な分析等に基づき、シラバスおよび「吹高 CAN-DO リスト」の充実させるとともに、ICTの活用促進や「主体的・対話的で深い学び」の実現により、さらなる授業改善に組織的に取り組む。あわせて、これまで蓄積してきた「朝の学習会（朝ガク）」に関するノウハウを整理し、継続的に基礎学力の定着を図る。

※生徒向け授業アンケートにおける授業等学習活動に関する満足度の平均（満点 4.0 / H28：3.13 H29：3.15）を 2020 年度には 3.2 以上に引きあげ維持する。

イ 個別自習室・マルチルーム・図書室等の活用促進を図り、生徒に自学自習の習慣を定着させ、進学実績のさらなる向上に努める。

※2 年次 1 月の基礎学力調査の結果（Cゾーン以上 H28：22.0% H29：20.0%）を段階的に引きあげ、2020 年度には Cゾーン以上の割合を 30%以上に引きあげる。

(2) 生徒の力を育成する新たな教育課程の構築、取組みの充実

ア 学習指導要領の改定に基づき、グローバル化・情報化等の社会の加速度的変化に対応できる「問題発見・解決能力」、「論理的思考力や探究力、コミュニケーション能力」、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するための新たな教育課程の作成、および取組みを実施する。

イ 平成 23 年度入学生から開設したこども未来専門コースについて、大学等との連携強化をはじめ近隣の幼稚園・保育園との協働によるデュアル・システムの導入など生徒の総合的な資質の向上に向け、円滑な運営推進に努める。

※こども未来専門コースを選択した生徒たちにアンケートを実施し、コースで学ぶ内容等についての満足度（H28：97.2% H29：85.0%）を 90%以上で維持する。

ウ 平成 25 年度入学生から開設した「進学クラス」に対する習熟度別講座・土曜講習・探究活動等を「吹高 CAN-DO リスト」に沿って計画的にレベルアップする等、進学 P T を中心として学力向上に向けた取組みを組織的に実施する。また、進学クラスでの成果を踏まえて、補習・講習の充実、質問会・宿題の量的見直し、個別自習室・図書室の利用促進などによって授業外の学習時間を増加させ、生徒全体の学力の向上を図る。

※進学クラスの生徒が受験する外部模試の偏差値 52.5 以上の生徒数を、2020 年度には 20 人以上にし、それを維持する。

※2020 年度には、関関同立・産近甲龍レベルの難関・人気大学への合格者 60 人以上をめざす。（H28：30 名 H29：24 名）

3 心身ともに健康であり続ける力の育成

ア 保護者や校外の関係機関との連携を強化するとともに、月 1 回の生徒情報会議（みかん会議）を充実させ、課題のある生徒の早期発見・対応を図る。加えて、新設された特別支援サポート委員会、生徒相談室の開放、スクールカウンセラーの活用等を通じて、支援や指導が必要な生徒により適切な形での支援・指導を行う。これらの体制を十分に機能させることにより、生徒が自らの心身の状況を正しく理解し、学校生活に適応していく力を育成する。

イ 清掃活動、救急講習、性教育講演会、薬物乱用防止教室等を通じて、将来につづく健康管理・自己管理の意識を育成する。

※生徒・保護者向け学校教育自己診断等の教育相談に関する項目の肯定率（H28：77.3% H29：82.4%）を毎年引きあげ、2020 年度には平均 90%以上にする。

同じく、生徒・保護者・教員の清掃に関する項目の肯定率を（H28：生徒 61.1%、保護者 74.2%、教員 27.1% H29：生徒 60.9%、保護者 70.2%、教員 43.9%）を毎年引き上げ、2020 年度には平均 60%以上にする。

4 校内組織・教職員集団づくり、保護者ならびに地域との連携の強化

(1) 運営委員会を中心としたミドルアップ・ダウンを確実に定着させ、学校運営の機動性をさらに高める。また、これまで以上に積極的・意欲的で一体感のある教職員集団の構築をめざし、学校経営計画の実現に向けた建設的な改善策や新たな取組みが、誰からも提案される学校風土を醸成する。

ア 学校運営に関わる大きな取組み・計画について運営委員会で議論を深め、目標を共有した組織的、一体的な取組みを確実に定着させる。

イ 首席を中心に、学務グループ（教務部・進路部）、生徒グループ（生徒指導部・生徒会部・保健部）が、それぞれグループ内の連絡調整をより円滑に行う。

ウ 校内研修（事務会計、配慮を要する生徒情報、個人情報取り扱い、最新の救命救急等）の機会を増やし、常に学び続ける教師集団を形成する。

(2) ICT等、校内ネットワークを活用し、校務の効率化に努める。

ア 教職員が生徒と向き合う時間を確保するため、省略できる連絡事項は校内メールによる情報共有をさらに促進するとともに、会議資料の簡素化、職員会議の内容のさらなる充実を図る。

(3) 地域や保護者との連携強化、広報活動の充実を図る。

ア 体育祭・文化祭やクリーンキャンペーンなどの学校行事への保護者・地域住民のより積極的な参加を図り、生徒・教職員との交流の機会を拡大する。同時に P T A 実行委員会等への教職員の参加を促し、状況報告、意見交換を行うなど双方向的な関係の深化に努める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析[平成30年11月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学習指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向けの「授業規律は保たれているか」という設問に対する肯定率は62.7%であった。個々の教員がそれぞれの授業力の向上に努めるとともに、授業規律の確立に向けて生徒への働きかけを組織的に強化していく努力が今後とも必要である。 今年度も88.3%の教員が授業アンケートを改善に役立てていると回答し、78.9%の教員が授業見学を改善にいかしたいと回答した。教員の授業力向上への意欲は高いと考える。一方、保護者は73.7%が「生徒は授業に満足している」と回答した。引き続き、改善への取り組み内容を工夫し、授業力向上につなげていく。 <p>【進路指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路希望に応じた教育課程の設定、計画的な進路HIRや丁寧な情報提供などの取り組みについて、生徒は84.9%、保護者は80.6%の方が肯定的な回答をした。引き続き、3年間を見通した進路指導計画のもと、一人ひとりの生徒に向きあうきめ細かな進路指導を心がける。 <p>【生徒指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> 遅刻、染髪、携帯電話に対する指導について、保護者からそれぞれ90%以上の肯定的な回答をいただいた。生徒からも遅刻防止(94.0%)や登校マナー向上(91.8%)への意識について高い肯定的回答があり、昨年度より向上している。今後も保護者の理解を得つつ、家庭と学校が協力してこれらの指導を粘り強く継続していくことが重要だと考える。 体育祭、文化祭等の学校行事については、生徒の84.9%、保護者の81.9%から肯定的な回答をいただいた。今後も、生徒たちの自主性、積極性を伸ばせるよう学校行事の充実を組織的に進めていく。 教育相談については、保護者から97.8%の肯定的回答をいただいた。学校に悩みを相談できる場があると回答した生徒は76.3%となっている。引き続き、相談室通信等の発行、学校内外での教育相談・支援教育への認知を高める工夫をすることで、生徒一人ひとりがより多くの教職員に相談しやすい環境を整えていく。 <p>【学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員の学校運営に関する4つの質問の肯定率は60.9%となった。教職員が入れ替わる中で、運営委員会を中心として全教職員が日常的に議論を深める重要性、有効性についての共通認識を持てる取り組みを今後とも進めていく。 職員会議の効率化については、教職員の肯定的回答が65.3%となり、職員会議の時間短縮が定着してきている。全教職員が協力して諸会議の時間を短縮し、ミニ研修時間の確保、生徒と向き合う時間の確保に努めていく。 	<p>【第1回(8月28日実施)】 「H30年度学校経営計画について」 (進学クラス)</p> <ul style="list-style-type: none"> 進学クラスの改変については、学校が言われるように、1年間はしっかりと馴れた上で自分の意志で選ぶ方が良いかもしれない。そういう意味では、2年生からのクラス選択制への変更も良いのではないかと。 進学クラスを立ち上げて実績を上げだしている中で、このまま継続して欲しい。学校側の体制でマイナーチェンジはあると思うが、進学を希望する生徒の受け皿として意欲のある生徒を引っ張り上げて欲しい。変更点があるのであれば、現状ではここが不都合であるなど、数値等を示すなどの説得力ある説明が必要ではないかと。 高校生活の3年間を記録しておく「e-ポートフォリオ」や英語の外部試験を受けさせる件など大学入試の改革が進んでいるが、高校側はどのように受け止めているのか気になるところです。配慮が必要な生徒への特別支援計画なども含めて、今後も情報を共有しながら、協力をお願いしたい。 <p>(学校経営計画について)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校経営計画は中期的な目標を向こう3年間見据えて書いておられるが、大きな変化の時代に、途中での見直しの余地はあるのか。30年度から3カ年の期間設定、時代の変化に対応するためにも途中の変更も必要になることもあるのではないかと。 学校経営計画の中期目標は、3年間がスパンになっているので、入学した生徒が3年間後にこうなってほしい姿を示すという解釈で良いのか。 <p>(生徒指導)</p> <ul style="list-style-type: none"> アルバイトしている生徒の人数を把握し、遅刻の原因になっていないか影響を慎重に調査してはどうか。 多様な生徒がいるなかで、先生方が本当に熱心に指導されていて、よい信頼関係があるので、有難いと感じている。 近隣に住んでいて吹田高校の変遷を見ているが、この10年間は随分と良い方向に変わったので、指導にあられた教員の方々に改めて敬意を表する。将来は何になるのかという意識を強く持って、今後さらに当高校に通う意義を高められるご指導をしていただきたい。 ダンス部に自治会のイベントに参加いただき好評だった。披露したいという意欲のため場として活用いただければありがたいし、積極的なタイアップしていければと思うので、ダンス部に限らず今後も御協力お願いしたい。 <p>【第2回(1月17日実施)】 「授業アンケート結果をふまえて」 (学校評価関係)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員の取り組み活動について、「すること」が目標ではなく、「生徒がこう変わる」ことが目標であるはず。よって「評価指標」の設定の仕方についても工夫されたい。 現在は進捗途中で未評価であった個所にも数値を入れていただいて、第3回目の会議では今年度のまとめをして、来年度への目標につなげて欲しい。 「関々同立」合格者の目標設定数は高すぎないか。 <p>(学校運営関係)</p> <ul style="list-style-type: none"> 経験年数の豊富な先生が多く退職した最近では、若手の教員を引っ張っていく雰囲気はあるのか。自分の意見が他者と違っても、学校としての目標達成のために力を合わせて努力してほしい。 中学校でも出退勤システムが導入されているが、限られた勤務時間の中でいかに教育の質を落とさずに活動をするかが問われている。教科間、担任間、分掌間などでこまめな状況共有が大切だと思っている。 最近の生徒の登下校風景をみていると、生徒の交通マナーは随分向上しているように感じる。 国際交流の中身について、国内で「グローバル人材」を育成する方法はいろいろあると思うので研究して欲しい。 企業求人数が1200件と大きく増加したのには、先生方のアクションがあったのか。先生方が、一人ひとりきめ細かく進路指導をされているのは安心感がある。 <p>【第3回(2月27日実施)】 (学校生活)</p> <ul style="list-style-type: none"> 遅刻数が大幅に減少したことは評価できる。全対数だけでなく、生徒個々についても観察、指導していくことが大切である。 生徒指導、授業規律など教員間での指導内容の共有化をさらに進めて取り組んで欲しい。 <p>(進路・進学関係)</p> <ul style="list-style-type: none"> 有名大学への進学実績は、進学希望以外の生徒の自信にも反映するので、同窓会も応援したい。 次年度から進学クラスを2年生から開始することは1年間しっかり進路を考えることになりいいと思う、1年生の間に実施する指導内容を校内で共有し全体の目標として取り組んで欲しい。 就職希望の生徒の指導についても手立てを講じて欲しい。 それぞれの生徒が希望する進路の実現に向けて取り組んでいると思う。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 自己を理解し、他者を認め、望ましい人間関係を構築する力の育成	(1) 基本的な生活習慣の確立と確かな規範意識をはぐくむ	<p>ア、生徒の遅刻防止に対する意識の向上をめざす。そのために、細かい目標設定を行い、本校における遅刻指導について、教員のさらなる理解を深めていく。遅刻だけでなく、欠席状況にも注意しながら基本的な生活習慣を確立させる。</p> <p>イ、頭髪指導において、指導経緯を再確認するとともに、生徒へのアプローチを丁寧に行い、頭髪指導に関する生徒の理解を深め、自律を促す取り組みを展開する。</p> <p>ウ、生徒、保護者への連絡を密に行いながら、生徒の自律を促し、家庭と学校とが連携強化をはかるとともに、制服・ピアス等身だしなみ指導の徹底をめざす。</p> <p>エ、1年生の自転車交通安全講習会や交通キャンペーン及びポスターなどを通し、継続的な交通マナーに関する指導を行い、生徒の交通マナーに関する意識を高める。それにより、自転車通学者を中心に交通安全意識の向上をめざす。</p> <p>オ、授業マナー（机上整備・準備の徹底、携帯電話電源 OFF 等）について、具体的取組を検討し、学年団とも連携のうえ、生徒への働きかけを強化する。</p> <p>カ、1年次に基礎的な情報モラルを育成するため、人権教育推進委員会・情報科・学年が連携し計画的に学習を実施する。</p>	<p>ア、継続的に調査している年間遅刻件数を 2500 件以下とする (H29：2727 件)</p> <p>イ、年間の頭髪帰宅指導件数を 20 件以下とする (H29：10 件)</p> <p>ウ、服装指導における預かり指導件数を 20 件以下 (H29:27 件)</p> <p>エ、生徒向け学校教育自己診断における登下校マナーに関する項目の肯定率 90%以上 (H29:87.8%)</p> <p>オ、生徒向け学校教育自己診断における授業規律に関する項目の肯定率 75%以上 (H29：61.4%)</p> <p>カ、学習後の理解、認識の向上に関するアンケートの肯定率90%以上 (H29:94%)</p>	<p>・遅刻総数は 2011 件で昨年度から大きく減少し、基本的な生活習慣の確立している生徒が増加した 【◎】</p> <p>・頭髪指導を受ける生徒も減少して、14 件であった 【○】</p> <p>・スカート下ジャージの着用がほとんどなくなり、マナー向上がみられる。件数は、19 件であった 【○】</p> <p>・肯定率は 91.8%。登下校指導と違反者に対する警告、安全運転指導等の成果がみられる。 【○】</p> <p>・授業規律に関する肯定率が約 63%であった。昨年からはほぼ横ばいであり、目標には届かなかった。 【△】</p> <p>・1年次は 2 回の情報モラル教育を HR 活動にて実施。1 回目は担任団による授業、2 回目は外部講師による授業で好評であったが数値のアンケートは実施せず</p>
	(2) 様々な活動を通じて、自己正しく理解した上で、他者を認め、望ましい人間関係を創り上げる力をはぐくむ	<p>ア、生徒会執行部とそれ以外の生徒の連携を促し、生徒が自主的・積極的な活動を展開できるような支援を行うとともに、それを実現し得る校内体制をさらに強化する。</p> <p>イ、校内外に向けた部活動の情報提供を活性化し、部活動の質・量、両面での向上を支援する。</p> <p>ウ、・いじめアンケートの実施による実態把握と、迅速な対応を行う。 ・3年間を見据えた人権 HR 計画の更なる充実と円滑な実施を行う。</p>	<p>ア、生徒向け学教育自己診断における、学校行事への自主性・積極性に関する項目での肯定率90%以上 (H29：85.3%) 教員向け学校教育自己診断における、学校行事の組織的な取組みに関する項目での肯定率 80%以上 (H29：80.5%)</p> <p>イ、クラブ部員向け満足度調査における、部活動に対する肯定率80%以上 (H29:75%) ・生徒、保護者向け学校教育自己診断における部活動に対する肯定率 85% (H29:80.0%)</p> <p>ウ、生徒向け学校教育自己診断における人権教育に関する項目の肯定率 75%以上 (H29：74.3%)</p>	<p>・肯定的な回答は約 85%で、昨年度とほぼ同じ数値となった。生徒会執行部と生徒の連携を構築していく必要がある。 【△】</p> <p>・肯定率は約 58%で昨年度から大幅に低下した。分掌、学年、教科というそれぞれの単位において、組織的な連携が図れるよう、継続的な取り組みが重要である。 【△】</p> <p>・部活動に対する肯定率は 84.9%であった。設備や道具に対する要望が多かったので引き続き支援していく。 【○】</p> <p>・生徒は約 82%、保護者は約 83%で、昨年から微増したが数値目標を達成できていなかった。生徒会新聞や部代表者会議、HP やブログ、メルマガ等を引き続き活用することで目標達成を図る。 【△】</p> <p>・人権教育に関する項目の肯定率は、78.4%であった。 【○】</p>
	(3) 生徒が主体的に進路目標を定め、実現できるよう、「展望を持たせる取組み」を通じて、社会の中で生きていく力をはぐくむ	<p>ア、3年間を見通した「進路指導計画」や「模擬試験の年間計画」等を年度当初に生徒に提示し、進路実現に向けて生徒が主体的、計画的に取り組むように促す進路指導を行う。</p> <p>イ、各学年の実態に応じた「進路ガイダンス」を実施する。</p> <p>ウ、「吹田進路プログラム」の再検討を通じて「進路のてびき」の内容および使用方法について改訂を行う。</p> <p>エ、就職希望生徒（学校幹旋及び公務員）に対して、より細かい指導を行う</p> <p>オ、「進路検討会議」の定着を図り、進路実現に向けての課題を早期の掘り起こし、早期の計画的支援につなぐ。</p>	<p>ア、「進路指導計画」および「模擬試験の年間計画」等を 6 月までに生徒に提示</p> <p>イ、各学年進路HRにおいて、「進路のてびき」を使った進路学習を計画的に実施 ・「進路ガイダンス」は各学年の発達段階に留意しつつ実施し、3 年は 2 学期までに 2～3 回開催</p> <p>ウ、「進路のてびき」の内容の充実に向けた改定をし、1 学期中に配付する。</p> <p>エ、就職希望生徒（学校幹旋）の卒業時の内定率 100% (H29：100%)</p> <p>オ、「進路検討会議」を、1,2 年生は年 1 回、3 年生は 1 学期に 1 回、2 学期に 2 回実施 ・生徒向け学校教育自己診断における進路指導に関する項目の肯定率 85%以上 (H29：81.7%)</p>	<p>・「進路指導計画」および「模擬試験の年間計画」等年度の早い段階の進路HRで生徒に提示できた。 【○】</p> <p>・「進路のてびき」は、3 年は 4 月のガイダンスで配布をした。1,2 年に関しては 5 月の進路HRで配布した。また、各学年の進路ガイダンスは予定通り実施できた。 【○】</p> <p>・学校幹旋就職を希望する生徒の内定率は今年度も 100%を達成できた 【○】</p> <p>・進路検討会議は、予定していた分はすべて実施でき、きめ細やかな指導をするための情報共有が図れた。 【○】</p> <p>・進路指導に関する項目の肯定率は 85.6%であった 【◎】</p>

府立吹田高等学校

<p>2 確かな知識や技能をもとに考え、判断・表現し、主体的に学び続ける力の育成</p>	<p>(1) 生徒の持つ学力を最大限に引き出す</p> <p>(2) 生徒の力を育成する新たな教育課程の構築、取組みの充実</p>	<p>ア、・進路指導部、学年、進学PTが連携し、進学講習、個別自習室、学習アプリケーション等の利用の推進について取組みを進め、自学自習する生徒への支援を充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校をあげて、「朝ガク」を「基礎学力の定着」「学習環境の確立」の両面から、3年間見通したベースプランの策定を行う。 <p>イ・観点別学習状況を踏まえた年間計画(シラバス)充実を図る。「吹田進路プログラム」との関連性を整理したうえで、新「進学クラスCAN-DOリスト」の改訂を行い、内容の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年2回(7月、12月)の授業アンケート結果をもとに組織的な授業力向上策につなぐ。 <p>ウ、ICT活用授業、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、校内外での研究授業・研修などを通して各教科の授業力の向上を図る。</p> <p>ア、次期学習指導要領の改定を見据え、吹田高校の生徒の力を育成する新たな教育課程の検討を開始する。</p> <p>イ、大学や地域機関との連携を更に深め、こども未来専門コースで展開される専門教科の授業の質を更に向上させる。</p> <p>ウ、進学クラス生徒の進学に対するモチベーションを向上させ、3年間を見通した進路指導を充実させる。また、土曜日講習を含めての円滑な進学クラス運営を行う。</p> <p>エ、異なる文化や習慣を尊重する精神を養い、国際的な視野を育てるため、国際交流の機会を利用する等、系統的な指導を行う。</p>	<p>ア、2年次1月の基礎力判定テストの学習到達ゾーンCゾーン以上の割合を30%以上(H29:20%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進学講習の受講者のべ600名以上(H29:705名) <p>イ、新「進学クラスCAN-DOリスト」の更なる改訂</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケート結果の平均3.15以上を維持する(H29:3.15) <p>ウ、校内研究授業を年間8回以上の計画的実施(H29:8回)</p> <p>イ、こども未来専門コースの授業に対する満足度90%以上を維持する(H29:85%)</p> <p>ウ、土曜日講習に対する満足度80%以上を維持する(H29:81.6%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関関同立・産近甲龍レベルの延べ合格者を40人以上(H29:24人) 	<ul style="list-style-type: none"> ・1月分の基礎力診断テストのCゾーン以上の割合は20%であった。【○】 ・進学講習のべ受講者数は464人であった。【△】 ・授業アンケート結果の平均は3.19(1回目:3.20、2回目:3.17)で達成できた。【○】 ・校内研究授業は現在9回実施済み。研究授業の多くはICT機器を利用した授業やAL型授業が多かった。また、11月12日~22日の間に授業見学週間を設け、教科の枠を超えて相互に見学した。【○】 ・こども未来専門コースの授業に対する満足度は、97.5%(2年95%、3年100%)であった。【◎】 ・土曜日講習に対する満足度は79.1%であった。【△】 ・関関同立・産近甲龍レベルの延べ合格者は28人であった。【△】
<p>3 心身ともに健康であり続ける力の育成</p>	<p>心身ともに健康であり続ける力を育てる</p>	<p>ア、・多様な生徒情報を保健部主導による月1回の生徒情報会議(みかん会議)で共有し、課題のある生徒への早期対応に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校医・学校歯科医・学校薬剤師、養護教諭による健康相談を随時実施し、生徒や保護者が有する心身の健康についての悩みや相談にいち早く対応する。 ・特別支援サポート委員会と連携・協働し、合理的配慮が必要な生徒の早期発見に努め、スクールカウンセラーや関係機関と連携して、個別の支援方法(支援計画の作成等)を検討する。 <p>イ、教職員や生徒保健委員会等からアイデアや意見を聞き取り、日常の校内清掃活動の充実、校内美化の推進につなげていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各行事前等の清掃徹底週間では、特にトイレ、廊下、階段などの共用エリアの美化に重点的に取り組む。 ・生徒保健委員による美化啓発活動を実施し、校内美化意識を向上させる。 ・クリーンキャンペーン等の校内外清掃を地域と連携して実施し、地域全体の環境美化に対する生徒の意識を高める。 <p>ウ、生徒と教職員による定期安全点検を各学期ごとに行い、安心・安全な学校環境を維持する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係各機関と連携し、防災教育や防災訓練、救急処置講習会等を計画的に実施し、地域的な防災・安全対策を推進する。 <p>・生徒の健康課題の解決に向けた各種講習会を学年ごとに計画的に実施する。また、生徒の健康実態を把握し、生徒保健委員会による健康課題解決に向けた啓発活動を併せておこなう。</p>	<p>ア、生徒・保護者向け学校教育自己診断での教育相談に関する項目の肯定率が生徒保護者教員の平均85%以上(H29:平均88.2%)</p> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒保健委員による美化啓発活動を年間5回以上実施する。 ・生徒保護者教員向け学校教育自己診断の清掃に関する項目の肯定率の平均が60%以上(H29:58.3%) <p>ウ、安全点検の実施と事務室による対応結果の確実な共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災教育や各講習会後の生徒対象アンケートにおける理解・認識の向上に関する肯定率90%以上を維持する(H29:98.0%) <p>・生徒保健委員会による健康課題解決に向けた啓発活動を年間5回以上実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談に関する項目の肯定率の平均は85.4%であった。(生徒64.5%、保護者97.8%、教員94.0%)【○】 ・学校医・学校歯科医による健康相談は年間16回実施し、延べ56名の生徒に対して心身の健康についての悩みや相談について専門的立場から指導助言をいただいた。また、養護教諭による健康相談も慢性疾患のある生徒等に対して実施し、服薬指導、健康管理等について指導した。 ・校内特別支援サポート委員会を継続して実施し、障がいのある生徒に対し、学習活動、特別活動等学校生活全般について提供が必要な合理的配慮について検討し、個別支援計画・個別指導計画の作成、教職員全体への合意形成につなげた。 ・生徒保健委員による校内清掃啓発活動として、啓発ポスター作成やゴミ箱設置削減、掃除用具の点検等を合計6回実施した。【○】 ・「日頃校内美化に努めている」と回答した生徒は、69.7%、「校内の清掃指導が徹底されていると思う」と回答した教員は36.0%、「校内は清掃が行き届いている」と回答した保護者は67.1%で、すべての平均は57.6%であった。【△】 ・職員及び生徒による定期安全点検を年間のべ6回実施した。事務室と連携し、学校で可能な対応、処置についてはすべて行った。来年度は日常の安全点検についてもさらなる啓発に努めたい。【○】 ・薬物乱用防止教室の事後アンケートでは、98.0%の生徒が「薬物は一度の使用でも『犯罪』『乱用』になるので絶対に使わない」と回答した。また、栄養管理セミナーの事後アンケートでは、95.0%の生徒が「よく理解できた」「理解できた」との回答した。同様に献血セミナーでは96.2%であった。【◎】 ・生徒保健委員生徒による活動は年間5回実施した。(学校保健委員会での発表、保健便りの作成、各種健康診断時の運営補助等)【○】

府立吹田高等学校

4 校内組織・教職員集団づくり、連携強化	(1) 校内組織の活性化、教師集団づくり	<p>ア、「基本的生活習慣・規範意識の確立」「学力の向上」「授業力向上」「新教育課程の編制」を学校全体の大きな取組み課題ととらえ、分掌を超えての連携ならびに役割分担の明確化を行い、運営委員会での方針決定のもと、機能的に課題を解決する。</p> <p>イ、各首席が学務グループ長、生徒グループ長として、上記横断的課題を解決するため、各分掌間の連絡調整を綿密に行う。</p> <p>ウ、職員会議内のミニ研修を活用し、「知りたい」「知っていてほしい」課題についてのタイムリーな研修とする。そのことで常に学び続ける教師集団を形成する。</p>	<p>ウ、ミニ研修の実施 4 回以上 (H29: 4 回)</p>	<p>・職員会議内のミニ研修は4回実施した。てんかん、食物アレルギー、非常時の防災対策等についての内容で今後もタイムリーな内容で企画する【○】</p>
	(2) 校務の効率化	<p>ア、校内メール、共有フォルダ、スクリーン映写資料を活用して報告事項の精査、資料の簡素化、会議に要する時間のさらなる短縮をめざす。</p>	<p>ア、教員向け学校教育自己診断の職員会議の時間短縮に関する項目の肯定率 80%以上 (H29: 75.6%)</p>	<p>・時間短縮に関する項目の肯定率は 65.3%で目標に届かなかった。引き続き校内メール、共有フォルダ等を利用して短縮をはかり、生徒と向き合う時間を増やすように努める【△】</p>
	(3) 地域・保護者との連携強化、広報活動の充実	<p>ア、学校行事・クリーンキャンペーン・登下校指導の機会を利用し、地域住民や・PTA 等の保護者との連携を強化する。</p> <p>イ、広報PT が中心となり、より効果的な広報活動について引き続きトータルに検討し実施する。また、HPの更新頻度を上げ、情報発信の機会を拡大する。</p>	<p>イ、保護者向け学校教育自己診断の広報に関する項目の肯定率 75%以上 (H29:68.8%)</p>	<p>・広報に関する項目の肯定率は 69.2%で目標に届かなかった。地震直後HPが更新できなかったことが影響したと思われる。引き続きメルマガ・HP等を通じてスピード感を持って正確な情報発信に努める【△】</p>